

JIU JITSU TODAY

VOL.
12

2025 SUMMER

【ジウジツトゥデイ】



大会レポート

ASIA CUP

ASIA KIDS / ASIA MASTERS

TOKYO WINTER / TOKYO SPRING

DUMAU INTERNATIONAL

インタビュー

白木“アマゾン”大輔
フランチェスカ・リザマ



DUMAU

www.dumauasia.com



DOODLE MODEL

Greeting



本誌が皆様の手元に届く頃は日本は梅雨明け目前で本格的に暑い夏に入る頃だと思います。その長い暑い夏を超えるといよいよ当連盟が昨年に続きホストとなるSJJIF WORLDが千葉で開催されます。昨年は過去一番と言っていい盛り上がりを見せた世界選手権ですが、今年は昨年を超えられるよう、また選手の皆様が日頃の練習の成果を発揮できる舞台をお届けできるよう、着々と準備を進めております。

そして今号ではかねてより協力関係にあったグアムのマリアナスシリーズの特集を約20ページにわたり掲載しております。マリアナスシリーズのアジア各国での盛り上げの様子もぜひご覧ください。

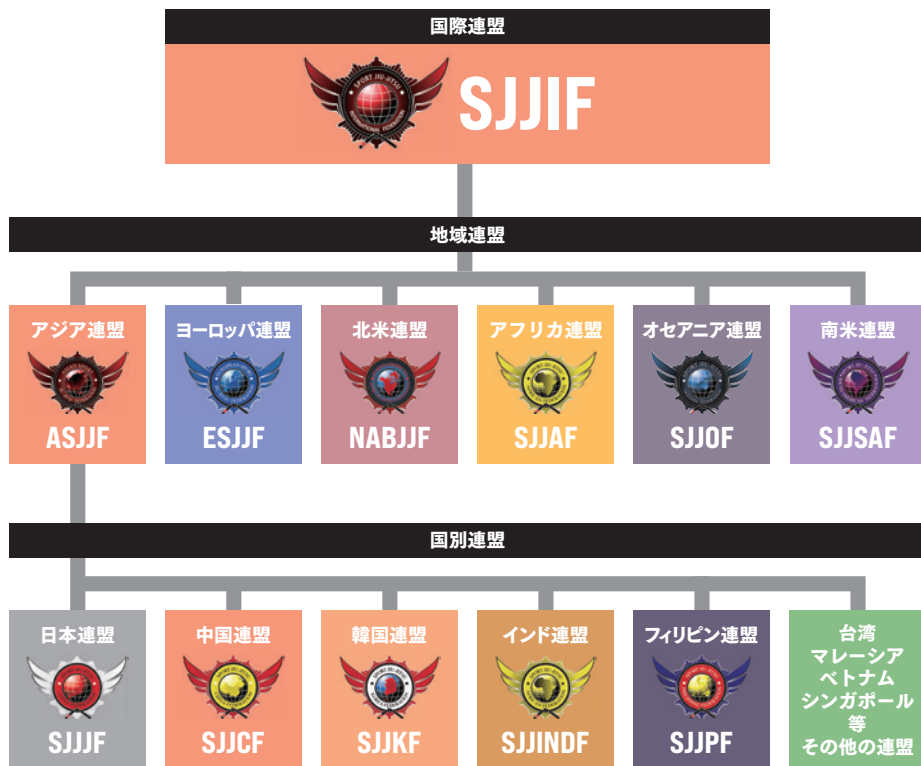


アジアスポーツ柔術連盟会長
亀原エチソン

SJJIF ORGANIZATION CHART

SJJIFは“柔術をオリンピック競技に！”をスローガンに掲げて、世界各地で柔術の競技大会の開催や普及活動に取り組んでいます。

SJJIF(スポーツ柔術国際連盟)の組織図



ス ポーツ柔術国際連盟は2013年にアメリカを拠点として設立され、柔術の普及とオリンピック種目への採用を目指しています。

これらを実現するため、SJJIFは各大陸に連盟を設けており、ASJJFは、アジア各国における啓蒙活動と柔術大会の運営、プロモーションを担っている

団体です。

SJJJFは国別連盟にあたり、ASJJFの統括の下に日本での大会運営などを中心に活動を広げています。

ASJFF & SJJJF 大会レポート

Report

2025年前半も見逃せないビッグイベントが盛りだくさん。
アジアの冠がついた3大会を中心に、新たな試みで大いに盛り上がった団体戦など
バラエティーに富んだ大会のレポートをお届けします！



TOKYO WINTER 2025
ASIA CUP 2025
ASIA KIDS 2025

ASIA MASTERS 2025
TOKYO SPRING 2025
DUMAU INTERNATIONAL 2025

TOKYO WINTER 2025

DATE: 2025年1月19日(日) ひがしんアリーナ

ASJJF が主催するアジアを冠した2大会であるアジアカップとアジアオープン。今大会では日本のみならず海外からも多数の選手が参戦していた。

ASJJF の年度開幕戦の

冬の祭典が

華々しく幕開け

マスター 30 黒帯ミドル1 回戦でアップセット。なんと過去に全敗していた“シュシャ”ことホブソン・タンノ(CARPE DIEM FUKAGAWA)に後藤拓磨(トライフォース上尾)が対戦19回目&初対戦から12年目にして劇的な初勝利。だが決勝戦で卯都木豪(CAVE)に敗れて準優勝に終わる。



アダルト紫帯Wゴールドの有松息吹(Leos Jiu Jitsu Academy)はまだ若き新鋭。海外での柔術修行経験もあり、これまでグラップリングで活躍していたが今後はギア arīでも頑張っていくとのことだ。



得意のカーフスライサーで一本勝ちした高本裕和(高本道場)がマスター 41 黒帯オープンクラスで優勝。決勝戦は木村健一郎(カエル柔術)との対戦だったが、いつもの勝ちパターンで完勝している。



アダルト茶帯ライトフェザーのワンマッチ決勝戦、洪澤涼真(PA TO STUDIO)と長谷部悠(リバーサルジム新宿 Me.We)の試合は拮抗した試合展開の接戦になり、洪澤が苦戦の末に辛勝。

“TT”こと高橋俊彦(パラエストラ吉祥寺)がASJJF常連のホベルト・マツオ(カローロストグBJJ)とマスター 36黒帯ライトフェザーのワンマッチ決勝戦で対戦し、三角絞めで一蹴。



MMAと柔術の両立を目指す中尾あづき(CARPE DIEM MITA)が女子アダルト青帯ライトのワンマッチ決勝戦でジェシカ・ジャブロ(Leos Jiu Jitsu Academy)からバsguardして勝利。



柔術歴20年を超す大ベテランの佐藤和弥(パラエストラ小岩)が突如として試合出場。マスター 41黒帯フェザーのワンマッチ決勝戦で木村健一郎(カエル柔術)と対戦も盤石の試合運びで危なげなく優勝。



関西エリアの若手有望株の井田徠(Impact BJJ)がアダルト紫帯ライトフェザーの2試合を一本勝ちして優勝。今年はMMAに集中するとのことで柔術マッチ出場機会は少なくなりそうだ。



アダルト紫帯フェザーで圧倒的な強さを見せていた中島琉輝(Axis)は紫帯になってすぐに優勝。特に絞技に熟練の技術があり、バックやマウントなど様々なポジションにから極めていった。



キッズのノーギマッチも徐々に試合が組まれるようになってきた。ノーギ女子キッド4黄帯ライトはミカエラ・エドゥアルダ(EVOX BJJ)がイザベラ・モモカ・ウオーカー(Leos Jiu Jitsu Academy)に腕十字を極めて一本勝ち。



高本裕和の長女、高本千代(高本道場)も柔術とMMAを並行して戦っている。今大会ではフェザーで渡辺瑠里子(Axis)に、オープンクラスでメーガン・フィッシャーにそれぞれ勝利して女子アダルト紫帯Wゴールド。

ASIA CUP 2025

DATE: 2025年2月9日(日)

駒沢オリンピック公園屋内球技場

ASJJF が主催するアジアを冠した2大大会であるアジアカップとアジアオープン。今大会では日本のみならず海外からも多数の選手が参戦していた。

1日で2000人ももの参加者があった大規模大会

お笑い芸人・品川祐が

青帯デビュー戦を行い3位入賞を果たす



今大会で3年半ぶりに日本での試合に挑んだ山本博斗(IGLOO)がアダルト黒帯ライトフェザー決勝戦で井手智朗(X-TREME柔術アカデミー)に腕十字を極めて快勝。国内復帰戦で金メダルを獲得し安どの表情だった。

Hakuto Yamamoto (IGLOO), who was competing in Japan for the first time in three and a half years at this year's tournament, scored a comfortable victory over Tomoro Ide (X-TREME Jiu Jitsu Academy) in adult black light feather final with armbar.



マスター 30黒帯のミディアムヘビー & オープンクラスで優勝したアンソニー・クルーズ(カーウソングレイシイグアム)。どちらも決勝戦はデヴィッド・ヌネス(INFIGHT JAPAN)と対戦し、2連勝している。

Anthony Cruz (Carlson Gracie Guam) won Master 30 black medium heavy and open classes. Both faced David Nunes (INFIGHT JAPAN) in finals and won two straight.



中島琉輝(Axis)がアダルト紫帯フェザー決勝戦で上遠野玄宗(CARPE DIEM HIROO)から2:50 送り襟絞めて一本勝ちして優勝。中島は紫帯に昇格後も連勝中で、絞めによる一本勝ちが多い。

Ryuki Nakajima (AXIS) won Adult Purple Feather Final with submitted by 2:50 Collar Choke from Genshu Katono (CARPE DIEM HIROO). Ryuki has been on a winning streak since his promotion to purple belt, with many of his wins coming by chokes.



かねてより柔術をやっていたお笑い芸人・品川庄司の品川祐(ボンサイ柔術)が青帯デビュー戦に挑んだ。試合はマスター 51 青帯フェザーで1勝を挙げて3位入賞を果たす。メダルを獲得しマルコス・ソウザと三崎和雄と記念撮影に収まった。

Yu Shinagawa (Bonsai Jiu Jitsu) of comedian Shinagawa Shoji, who has been training jiu jitsu for some years, made his blue belt debut. His match was in Master 51 blue feather, where he won one match and placed third. He won a medal and was photographed with his coach Marcos Souza and Kazuo Misaki.



いま紫帯で最も勢いがある大野智輝(CARPE DIEM HIROO)はアダルト紫帯ライトフェザーをギとノーギでWゴールド。最近ではレスリングのトレーニングにも積極的で、その成果が試合結果に如実に表れている。

Tomoki Ohno, the most promising purple belt in today, won Adult Purple Light Feather title in both Gi and NO-Gi to earn W Gold. Recently, he has been actively training in wrestling, and results of his training have been reflected in results of his matches.



アダルト茶帯ライトフェザーの3人巴戦を制した洪澤諒真(PATO STUDIO)は決勝戦で上田直毅(パラエストラ東京)との接戦を競り勝った。洪澤はいまや国内トップの軽量級茶帯とっていいだろう。

Ryoma Shibusawa (PATO STUDIO) won a three-way battle in adult brown light featherweight division and competed in a close match against Naoki Ueda (Paraestra Tokyo) in final. Ryoma is now one of the top lightweight brown belts in Japan.



アダルト紫帯オープンクラス決勝戦は日系ブラジリアンのグスタボ・ツボネ(INFIGHT JAPAN)と台湾から参戦のチ・チェン(トルネード柔術アカデミー)の国際戦で、優勝したのはグスタボでヘビーと併せてWゴールド。

Adult Purple Open final was an international match between Japanese Brazilian Gustavo Tubone (INFIGHT JAPAN) and Chen Chih (Tornado Jiu Jitsu Academy) from Taiwan.



いつも激しい試合になるエンゾ・ヤマザト(カーロストヨタBJJ)とカエウ・ミゲル(EVOX BJJ)のジュブナイル青帯のオープンクラスの試合だが、今回はエンゾがサドンデスでスーパースタミナを制した。

In what is always an intense match between Enzo Yamazato (Carlos Toyota BJJ) and Kael Miguel (EVOX BJJ), an open class juvenile blue belt, this time Enzo swept in sudden death to win a hard-fought bout.



女子のマスター 30 青帯 オープンクラスはフェザー優勝の立花千春 (Yawara) とライト優勝のキャサリン・ダン (ATOS GUAM) のチャンピオン対決となり、立花が 9-0 で勝利して W ゴールド。立花は大会後に紫帯に昇格している。

Female Master 30 blue belt open was a championship matchup between feather champion Chiharu Tachibana (Yawara) and light champion Katherine Dunn (ATOS GUAM), with Chiharu winning 9-0 for W gold. Chiharu was promoted to purple belt after tournament.



女子カテゴリーに対戦相手不在で男子との対戦になった湯浅羽音 (THE BLACKBELT JAPAN) はキッド 5 橙帯フェザーのワンマッチ決勝戦で韓国から参戦のパク・ジンウ (MARC Jiu Jitsu) から勝利して優勝は快挙だ。

Hanon Yuusa (THE BLACKBELT JAPAN), who had no opponent in female category and had to fight a male competitor, won Kid 5 orange feather one-match final with a victory over Jin Woo Park (MARC Jiu Jitsu), a competitor from Korea, which was a great achievement.



アダルト青帯のスーパーヘビー & オープンクラスで優勝したカイル・エメリック (イヴァンサカモト BJJ) ははるばる沖縄から参戦。オープンクラス決勝戦では微笑弦汰 (NEO JUDO ACADEMY 小見川道場) から 17-2 の大差の判定勝ち。

Kyle Emerick (Ivan Sakamoto BJJ), winner of Adult Blue Super Heavy and Open classes, came all the way from Okinawa, Japan. In Open Class final, he won by a 17-2 from Genta Bisho (NEO JUDO ACADEMY Omigawa Dojo).



キッド 5 灰帯フェザー優勝のリオ・レイジェスはグアムの Figo/ボンサイ代表のルイス・レイジェスの息子。決勝戦では伊藤カイキ (チェックマットジャパン) から腕十字を極めて一本勝ちで優勝。

Kid 5 gray belt feather winner Rio Reyes is son of Luis Reyes, a Figo/Bonsai representative from Guam. In this finals, he won by armbar from Kaiki Ito (Checkmat Japan).

渡部修斗は大会レギュラーで

ノーギでの参加が多いが

今後はギありでの参戦も期待したい



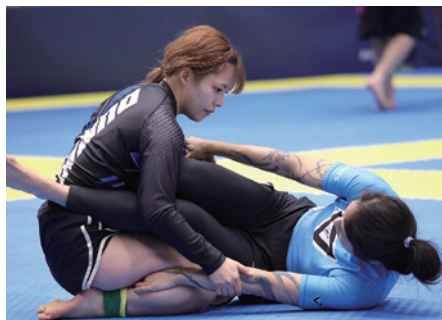
ノーギ・グラップリングで数々のタイトルを保持する渡部修斗 (ストライプ新百合ヶ丘)。ノーギ・マスター 36 黒帯ライトフェザー決勝戦で過去何度も対戦しているホベイト・マツオ (カーロストヨタ BJJ) から再び勝利して金メダルを獲得。

Shuto Watanabe (Strapple Shinyurigaoka) holds numerous titles in NO-GI / grappling. He again won gold medal with victory over Roberto Matsuo (Carlos Toyota BJJ), whom he has faced many times in past, in NO-GI Master 36 black light feather final.



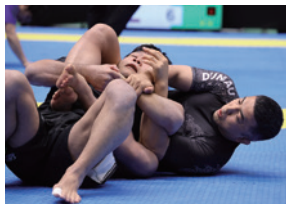
まだ十代ながら海外のプロマッチ参戦も多い大嶋聡承(寿柔術)がASJJFのトップランカーであるグスタボ・ツボネ(INFIGHT JAPAN)からノーギ・アダルト紫帯オープンクラス決勝戦でRNCで一本勝ち。今後はドーギマッチでの参戦も期待したい。

Sosuke Oshima (Kotobuki Jiu Jitsu), who is still in his teens but has competed in many professional matches overseas, won by RNC from ASJJF top-ranked Gustavo Tubone (INFIGHT JAPAN) in NO-GI adult purple open final by RNC. We look forward to seeing him in GI matches in future.



プロMMAでも活躍中の平田彩音(BURST)がノーギ女子アダルト青帯ライトフェザーのワンマッチ決勝戦で台湾人の周道文(台湾BJJ)に勝利して優勝を果たす。だがギの試合ではリベンジされてしまった。

Ayane Hirata (BURST), who is also active in professional MMA, won one-match final of NO-GI female adult blue light feather with a victory over Taiwanese Chou Tao Wen (Taiwan BJJ). However, she was revenge in GI match.



豪華なマッチアップが実現。ノーギ・マスター41黒帯オープンクラス決勝戦で白木大輔(CARPE DIEM HOPE)と濱岸正幸(CARPE DIEM SETAGAYA)のベテラン対決。試合は白木がバックを奪うなどして盤石の勝利。

Gorgeous matchups were realized. Daisuke Shiraki (CARPE DIEM HOPE) and Masayuki Hamagishi (CARPE DIEM SETAGAYA) faced off in NO-GI Master 41 black open final against a veteran. Shiraki won this match by taking the back.



ブラジリアン柔術の源流の1つであるオズワルド・ファダの血脈を受け継ぐレアンドロ・ファダ(ファダ柔術)はレフェリーと選手を兼任して大会に参加。選手としてはノーギ・マスター36黒帯オープンクラスで優勝している。

Leandro Fada (Fada Jiu Jitsu), who is descended from Oswaldo Fada, one of originators of Brazilian Jiu Jitsu, participated in tournament as both referee and athlete. As an athlete, he won NO-GI Master 36 black belt open class.



ギとノーギでWゴールドのニコリー・セキタニ(セキタニ柔術アカデミー)。ノーギ・アダルト青帯オープンクラスでは Guam と台湾の選手から連勝して優勝し、海外選手が相手でもいつも通りの余裕ぶりだった。

Nicolly Sekitani (Sekitani Jiu Jitsu Academy), a W-Gold in GI and NO-GI. She won NO-GI Adult Blue Open with consecutive wins over competitors from Guam and Taiwan, and was as comfortable as always against overseas competitors.



ノーギ・マスター30黒帯ミドルは Guam から参戦のオリバー・クルーズ(PUREBRED Guam)と日系ブラジリアンのマテウス・ヒロトミ(Impacto BJJ)の対戦となり、マテウスがバックマウントのポイントを得て勝利となった。

NO-GI Master 30 black middle was high-level match between Oliver Cruz (PUREBRED Guam) from Guam and Japanese Brazilian Mateus Hiroto (Impacto BJJ), with Mateus winning on points from back mount.



いまマスター黒帯の中で最強の一人となっているのがランジェール・ロドリゲス(RRT)だ。今大会ではマスター36黒帯でミディアムヘビーとオープンクラスで優勝し、Wゴールドに輝いた。

One of the strongest Master black belts right now is Rangel Rodriguez (RRT). At this year's tournament, he won medium heavy and open classes at master 36 black belt and was awarded W gold.



今大会は2000人以上の参加があり、1日開催の大会としては過去最大規模となった。マットは12面がセッティングされ、10時間以上も休憩なしのぶっ続けて試合が行われる盛況ぶりだった。

More than 2,000 people participated in this year's event, making it the largest one-day event ever held. Twelve mats were set up, and matches were going continuously for more than 10 hours without a break.

ASIA KIDS 2025

DATE: 2025年3月9日(日)

愛知県武道館

ASJJF のアジアを冠したキッズ大会。アジアの名に相応しく海外からの選手の参戦も多く、国際色豊かな対戦が数多く行われた。



女子キッド4灰帯フェザーで優勝したイザベラ・モモカ・ウォーカー (Leos Jiu Jitsu Academy) も姉妹で柔術をやっている妹。今大会では決勝戦で中国から参戦のグ・チェンシュアン(ストラクチュア柔術アカデミー)に腕十字を極めている。

Isabella Momoka Walker (Leos Jiu Jitsu Academy), winner of female Kid 4 gray feather, is also a sister who does jiu jitsu with her sister. In this year's tournament, she scored a armbar over Gu Chenxuan (Stricture Jiu Jitsu Academy) from China in finals.

国内外のキッズが元気に試合

男の子も女の子も将来有望キッズが多数



キッド5灰帯フェザー決勝戦はアジアカップのリマッチ。過去に負けている伊藤カイキ(チェックマットジャパン)がグアムからの刺客、リオ・レイジェス(Figo / BONSAI)にリベンジして優勝を果たす。

Kid 5 gray feather final was a rematch of Asia Cup. Kaiki Ito (Checkmat Japan), who has lost in past, will get revenge on Rio Reyes (Figo / BONSAI) from Guam, for the win.



際立った試合ぶりを見せていたのはジオバニ・マトバ(BJJ CORE JAPAN)だ。キッド6橙帯ミディアムヘビー決勝戦でラファエル・ヒグチ(カーロストヨタBJJ)に対し、送り襟絞めで一本勝ち。

Standout performer was Geovani Matoba (BJJ Core Japan). In Kid 6 orange medium heavy final, he attacked Rafael Higuchi (Carlos Toyota BJJ) with great vigor and finally won gold medal with a collar choke.



女子キッド5橙帯ミドル決勝戦でアップセット。ASJJFトップランカーのイザベラ・カドグチ (Impacto BJJ) がハルミ・スガヌマ (EVOX BJJ) にパス&マウントを奪われ敗れる。

Upset in female Kid 5 Orange Middle Final. ASJJF Top Ranker Isabella Kadoguti (Impacto BJJ) loses to Harumi Suganuma (EVOX BJJ) via pass and mount. The victorious Harumi is younger sister of Rebecca Suganuma.



加納世那 (Impacto BJJ) と吉井智規 (福住柔術) のトップキッズ対決のキッド6黄帯ライト決勝戦は加納がポジショニングで圧倒し勝利。敗れた吉井だが実力者ぶりが高く評価されている。

In Kid 6 yellow light final between top kids Sena Kano (Impacto BJJ) and Tomoki Yoshii (Fukuzumi Jiu Jitsu), Sena dominated with his positioning to win. Tomoki lost match, but was highly praised for his ability.



天本翔琉 (T-REX 柔術アカデミー) とダニエル・ヒガ (カーロストヨタBJJ) の顔合わせとなったキッド5黄帯ライト決勝戦は大激戦。両者ともアグレッシブに攻め続ける好勝負となり、最後は天本が制した。

Shoryu Amamoto (T-REX Jiu Jitsu Academy) and Daniel Higa (Carlos Toyota BJJ) met in Kid 5 Yellow Light Final, and it was a very hard-fought match. Both competitors continued to aggressively attack, with Shoryu taking win in the end.



大会出場常連のフェルナンダ・アユミ (INFIGHT JAPAN) と九州のトップ女子選手、城島咲夏 (ボヘミアンズ) が対戦した女子キッド6橙帯ライトフェザー決勝はフェルナンダが勝利してアジアキッズ王者となった。

Fernanda Ayumi (INFIGHT JAPAN), a regular tournament competitor, and Hinata Jojima (BOHEMIANS), Kyushu's top girl, faced off in female Kid 6 Orange Light Feather final, which Fernanda won to become Asian Kids champion.



女子キッド6橙帯ライトフェザー準優勝の城島咲夏の弟である城島可夢偉 (ボヘミアンズ) はキッド6黄帯ルーサー決勝戦でジョナサン・スズキ (EVOX BJJ) から一本勝ちで優勝し、姉の無念を晴らした。

Kamui Jojima (Bohemians), younger brother of female Kid 6 orange light feather silver medalist Hinata Jojima, avenged his sister's disappointment by winning Kid 6 yellow rooster final with victory over Jonathan Suzuki (EVOX BJJ).



関東圏のみならず地方遠征も積極的に行っている柴田ひかり (THE BLACK BELT JAPAN) がアリアンナ・パストレリ (BJJ CORE JAPAN) に勝利して女子キッド4黄帯ライトフェザーで金メダルを獲得。

Hikari Shibata (THE BLACK BELT JAPAN), who has been actively traveling not only to Kanto area but also to other regions, won gold in female Kid 4 yellow light feather with a victory over Arianna Pastorelli (BJJ CORE JAPAN).

ASIA MASTERS 2025

DATE:2025年3月9日(日)

愛知県武道館

アジアキッズと同日・同会場にて開催されたアジアマスターズ。中国・韓国・台湾・モンゴルなどアジアエリアから精鋭が集い、覇を競った。

アジアエリアから集結した強豪たちの豪華な競演

ジム代表たちが面子を賭けて激戦を展開



マスター 30黒帯ミドル決勝戦は韓国のユ・センヒョン (ASM BIGFOOT JJ) と名古屋のマテウス・ヒロトミ (Impacto BJJ) のワンマッチ決勝戦。結果はユがポイントで勝利して韓国に凱歌が上がった。

Master 30 black middle final was a one-match final between Yu Seonghun (ASM BIGFOOT JJ) of Korea and Mateus Hirotoomi (Impacto BJJ) of Nagoya. Result was a triumphant victory for Korea with Yu winning on points.



マスター 36黒帯フェザーとオープンクラスで優勝してWゴールド獲得のルーカス・タヒラ (EVOX BJJ)。フェザーでは中村将之 (タイショー BJJ) に、オープンクラスでは佐々木高広 (バトルチーム) に勝利している。

Lucas Tahira (EVOX BJJ) won Master 36 Black Feather and Open classes to earn W Gold. He defeated Masayuki Nakamura (Taisho BJJ) in Feather and Takahiro Sasaki (Battleteam) in Open Class.



ノーギの強豪、渡部修斗 (ストライプ新百合ヶ丘) がギでのタイトル獲得。マスター 36黒帯ライトフェザー決勝戦で森要 (Naser Do Sol) から判定勝ちも極めきれずに終わった。

NO-GI powerhouse Shuto Watanabe (Striple Shinyurigaoka) won title in GI. He won a decision from Kaname Mori (Naser Do Sol) in Master 36 black light feather final, but was unable to submit.



2024年度は無敗だった白木"アマゾン"大輔(CARPE DIEM HOPE)は相変わらず絶好調。マスター 41黒帯ヘビー決勝戦で中村 勇太(T-REX柔術アカデミー)にキムラで一本勝ちし、オープンクラス決勝戦は韓国のバク・クンス(キングダムJJ)にも勝利した。

Undefeated in 2024, Daisuke "Amazon" Shiraki (CARPE DIEM HOPE) continues to be on a roll. He defeated Yuta Nakamura (T-REX Jiu Jitsu Academy) by kimura in Master 41 heavy black final and also won open class final against Park Kunsu (Kingdom JJ) from Korea.



アンジェロ・シノハラ(カーロストヨタBJJ)とルーカス・アガタ(インスティントJJ)のマスター 30黒帯ミディアムヘビー決勝戦はアンジェロが大量ポイントを獲得して25-0で完勝。

Master 30 black medium heavy final between Angelo Sinothara (Carlos Toyota BJJ) and Lucas Agata (Instinto JJ) was completed with Angelo winning 25-0 on massive points.



マスター 36黒帯ライト決勝戦は高橋 謙人(CARPE DIEM KURUME)と吉 本 和 将(CARPE DIEM HOPE)のCARPE DIEM対決。結果は高橋が勝利で、勝ち名乗りの際には歓喜の雄叫びをあげた。

Master 36 black light final was CARPE DIEM showdown between Kento Takahashi (CARPE DIEM KURUME) and Kazumasa Yoshimoto (CARPE DIEM HOPE). Result was Takahashi's victory, and he shouted with joy when he was named the winner.



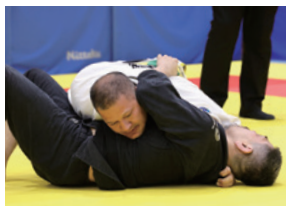
マスター 41黒帯ミディアムヘビー決勝戦は佐藤 浩司(Impacto BJJ)とキム・サン(キングダムJJ)の日韓戦に。試合は佐藤が制し、ワンマッチ決勝戦で勝利している。

Master 41 black medium heavy final was Japan-Korea match between Koji Sato (Impacto BJJ) and San Kim (Kingdom JJ). Sato won this one-match final by points.



マスター 46黒帯ライトのワンマッチ決勝戦はアレッシャンドレ・ドスサントス(OVERLIMIT BJJ)と折戸 大輔(BLUE MAX)のブラジルvs日本の国際戦で、アレッシャンドレがパスガードして勝利して優勝。

The one-match final of Master 46 Black Light was a Brazil vs Japan international match between Alexander Dos Santos (OVERLIMIT BJJ) and Daisuke Orido (BLUE MAX), which Alexander won with a pass guard.



マスター 46黒帯ヘビーの3人巴戦で2度の激戦を展開したホドリゴ・ソウザ(Impacto BJJ)と服部 謙一(HACHIYA BJJ STUDIO)は2度ハードファイトの3WAYマッチで、ホドリゴが2連勝して優勝も服部の粘り強さが光った。

Rodrigo Souza (Impacto BJJ) and Kenichi Hattori (HACHIYA BJJ STUDIO) fought two hard-fought three-way matches in Master 46 black heavyweight division. Rodrigo won these matches with two victories.



マテウス・ヒロトミとマーシオ・メデイロスのImpacto BJJのチームメイトでマスター 30黒帯オープンクラス決勝戦をクロースアウト。優勝はマテウスで準優勝はマーシオとなっている。

Close out Master 30 black open class finals with Impacto BJJ teammates Mateus Hirotoni and Marcio Medeiros. The taking gold was Mateus and got silver was Marcio.



マスター 51黒帯フェザーは稲野岳(CUTE)と川上聡宣(ALMA FIGHT GYM HOMIES)と吉永博之(パラエストラ大阪)の3人巴戦で、稲野が優勝を果たしている。

Master 51 Black Feather was a three-way match between Gaku Inano (CUTE), Toshinobu Kawakami (ALMA FIGHT GYM HOMIES) and Hiroyuki Yoshinaga (Paraestra Osaka), with Inano taking gold.

TOKYO SPRING 2025

DATE: 2025年4月19日(土)、20日(日)

駒沢オリンピック公園屋内球技場

2日間で1500人を集めた春の祭典は12年ぶりに復活開催の団体戦も大いに盛り上がり、大会は大盛況だった。



男子・青&紫帯-350kgで優勝したのはカーロストヨタBJJ。このチームはクリスチャン・マツオ&エンゾ・ヤマザトのツートップに加え、成長著しいジョアオ・コバヤシとマイケ・オオシロ、そして唯一の紫帯選手であるルーカス・ナラサキが加わり、全3試合で無敗で団体戦を制覇した。

団体戦はカーロストヨタBJJが全勝優勝

女子は七帝柔道女子部が制す



クリスチャン・マツオは試合終了1秒前に渾身の腕十字を極めて一本勝ちで相変わらずの極めの強さを発揮。



エンゾ・ヤマザトも腕十字で一本勝ちし、この団体戦決勝戦の5試合中3試合が一本決着となった。



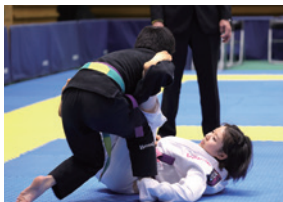
チーム唯一の紫帯のルーカス・ナラサキだったが対格差もあり極めきれずに終わるも7-4で競り勝っている。



女子団体戦は下馬評を覆して七帝柔道女子チーム・Team Gottz Hinaが優勝。佐々木未羽・後藤飛名・河本理倫子の3人がチームを組んだ。



女子団体戦の決勝戦・先鋒戦は東北大出身の佐々木未羽が柳朝海に対し、ガードからバックを奪い、4-0で勝利。



続く中堅戦では北大柔道部出身で中井祐樹の後輩に当たる後藤飛名が、山下明梨をガードからの腕十字で瞬殺。試合時間は1:03という秒殺劇だった。



すでにチームの敗北が決まっていた上田真央だが大将の意地を見せ、東大柔道部出身の河本理倫子からアームロックを極めて一本勝ちし、一矢報いた。



ノーギでもメキメキと実力を伸ばすグスタボ・ツボネ(INFIGHT JAPAN)がアダルト紫帯のウルトラヘビーとオープンクラスを制覇してWゴールド。階級＆無差別とも決勝戦はオスカー・フローレス(ネクサセンス)に勝利している。



九州・熊本でのTATORU代表の高亀洋介の長男・由宇が全試合一本勝ちでキッド5黄帯フェザーのトーナメント制覇。九州在住ながら頻繁に遠征して大会に出場しており経験値を積んでいる。



アダルト紫帯ライトは阿波根ケン(Impacto BJJ)とアーネル・タナリガ(CARPE DIEM KA MAKURA)のワンマッチ決勝戦。試合は阿波根が腕十字で一本勝ちして優勝を果たす。

色帯でニュータレントが台頭 若き精鋭たちが頭角を現す



中島琉輝の弟・海隼(Axis)がジュブナイル青帯16-17フェザーで優勝。決勝戦は高本哲至(高本道場)からサドデンスの激戦を制して優勝を決めている。



アダルト紫帯フェザーで優勝した上遠野玄宗(CARPE DIEM HIROO)は決勝戦で有浦佑紀(トイカツグラップリング東中野)からバックを奪うと鮮やかな送り絞めで一本勝ちでメダル獲得。



女子アダルト紫帯フェザーはワンマッチ決勝戦で高本千代(高本道場)とオーストラリア人のル・マーヤ(CARPE DIEM)の初対決。試合は極めきれず16-0という大差のポイントを獲得した高本が勝利。

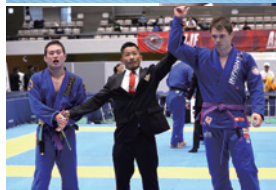


女子アダルト青帯ライトフェザーで優勝した兵頭亜瑠(MANO Jiu Jitsu)はハワイからの参戦で決勝戦は韓国から参戦のイ・ソンヒョン(CARPE DIEM釜山)から2-0で勝利。また兵頭はノーギでも優勝し2冠に輝く。



団体戦では敗れた柳朝海(MASTER JAPAN TOKYO)だが個人戦ではしっかりと優勝。女子アダルト紫帯オープンプラス決勝戦でフェザー優勝の高本千代(高本道場)からパスガードして3-0で勝利した。

ノーギでもWゴールドだったグスタボ・ツボネ (INFIGHT JAPAN) がギでもWゴールドで4つの金メダル=クアドラブル・ゴールドの快挙。ギではヘビー&オープンクラスで優勝している。



アダルト青帯Wゴールドはヘイトル・アモリン (INFIGHT JAPAN)。ライト&オープンクラスを制しての戦冠で、オープン決勝はドラマチックな勝利で場内也大盛り上がりだった。



女子アダルト青帯フェザー決勝戦で村松美直 (ALMA FIGHT GYM PUGNUS) から腕十字で一本勝ちしたニコリー・セキタニ (セキタニ柔術アカデミー)。オープンクラスは一人優勝だったがWゴールド獲得。



ノーギ女子アダルト青帯オープンクラス決勝戦でニコリー・セキタニ (セキタニ柔術アカデミー) とアナベラ・リンカ・ウォーカー (Leos Jiu Jitsu Academy) のマッチアップが実現もニコリーが腕十字で一本勝ち。



いま勢いを感じさせるキッスといえば加納世椰 (Impacto BJJ) だ。今大会では過去に敗れている渡邊陽成 (ねわざワールド品川) からリベンジ勝利してキッド6黄帯ライトで優勝を果たしている。

DUMAU INTERNATIONAL 2025

DATE: 2025年5月3日(土)、4日(日)

青山記念武道館

ASJJF の前身である DUMAU 時代の名前を引き継いでいる国際大会が2日連続での開催。
ノーギや団体戦も開催され、華々しく行われた。



すでにマスター3の年齢ながら
アダルト黒帯に参戦したレアンドロ・クサノ(クサノチーム)。オー
プンクラスのワンマッチ決勝戦
で柴田宏太(Impacto BJJ)か
らトローホールドで一本勝ち。



レアンドロ・クサノ、
アダルト黒帯に参戦も
一本勝ちで快勝
女子団体戦は EVOX BJJ が
3連勝で制す



アダルト黒帯ライト
フェザーのワンマッ
チ決勝戦は柴田宏
太(Impacto BJJ)
がグレゴリー・タナカ
(バトレチーム)から
絞めを極めて一本
勝ちで優勝。



ジュニオール・ナガセ(EVOX BJJ)とソ・ジェヒョン(ジョンフランクルJJ)の日系ブラジリアンvs韓国人の国際戦となったアダルト紫帯ルースター決勝戦。試合はジュニオールが勝利している。



試合復帰2戦目となったアガタ・フランコ(BASE Jiu Jistu)だが相変わらずの強さでアダルト青帯Wゴールド。階級別は一人優勝でオープンクラスは2試合連続の一本勝ちで制した。



アダルト茶帯フェザーもワンマッチ決勝戦で、堀部達也(HY BJJ)がヴィトー・ウツノミヤ(エクセンスアカデミー)からバックを奪い、そこから送り襟絞めで一本勝ちして金メダルを獲得。



女子団体戦は1試合のみが組まれ、松野穂奈未&レベッカ・スガマ&レティシア・ヒラノのEVOX BJJが、渡邊花美&高林倫&アユミ・カナシロのボンサイガールズから3連勝して圧勝。特に青帯のレティシアが紫帯のアユミからバックを奪ったのは凄かった。



マスター 46黒帯のミディアムヘビーとオープンクラスの決勝戦はどちらもホドリゴ・ソウザ(Impacto BJJ)と松尾隆行(CARPE DIE M NAGOYA)の顔合わせ。試合はホドリゴが2連勝でWゴールドとなった。



マスター 36黒帯オープンクラスの決勝戦は佐々木高広とエヴェルトン・アサオのバトルチームでクローズアウト。勝利を譲られた佐々木が優勝で、準優勝はトラオンとなっている。



女子は1試合のみだった団体戦だが、男子は多数のチームがエントリーして盛り上がった。だが東京・愛知とも黒帯でのチーム戦は実現せずだったので、今後の大会では組まれることを期待したい。

ASJJF のレギュラートーナメントで無敗を誇り、
いまだ快進撃を続けるアマゾン。
プロマッチ出場の数も多く、
78月に開催するプロ柔術
「ART.6」への参戦も決定しており、
さらなる飛躍が期待されている。

Daisuke “Amazon” S



マスター柔術家として勝ち負けも含めて、 自分自身の生きてきた証を 残せるような試合をしていきたい

——2024年のASJJFの大会では無敗でした。何大会に出たかなど覚えていますか？

白木：ありがとうございます。怪我から復帰したのが去年の4月で、そこから柔術以外のレスリングや団体戦なども含めて11大会に出場しました。運良く周りのおかげで良い結果を残せました。

——ほとんど毎月の大会に出ていて、ときには月に2〜3回の大会に出ることもあります。コンディションはどのように整えていますか？

白木：翌日の疲労を考えて、練習に関してはお昼ぐらの早い時間帯で全て終わるようにしています。フィジカルトレーニングも成長考え練習の前に入れるようにして、マスター世代でも伸ばせる部分に注力しています。スパーリングも良い感覚のスパークができれば終了するようにして、疲れを残さないように取り組むようにしています。完全休養日を2日から体調によって3日入れるよう考えています。心掛けているのは自分のメンタルを安定させる為の練習はやらない。テクニックや戦略、感覚の修正の為の練習に取り組むようにしています。

Shiraki

白木 “アマゾン” 大輔

——また試合に挑むモチベーションの保ち方も教えてください。

白木：大きなモチベーションを持ってしまうと結果によってモチベーションに左右されてしまうのでモチベーションという感じはなくて、試合は練習の延長と捉えて以前の自分より何が変わられたか成長できたか。試合の恐怖や緊張をどのようにコント

——You are undefeated in ASJJF tournament in 2024. Do you remember how many tournaments you attended, etc?

Shiraki: Thank you very much. I returned from injury last April, and from there I competed in 11 tournaments, including wrestling and team competitions other than Jiu Jitsu. I was fortunate to have good results thanks to the people around me.

——You compete in tournaments almost every month, sometimes two or three times a month. How do you condition yourself?

Shiraki: I try to finish all my training early, around noon, to avoid fatigue the next day. I also try to include physical training before training sessions, considering growth, and focus on areas that can be developed even in the master generation. I try to finish sparring when I have a good feeling about it, so that I do not get tired. I try to take two to three full rest days depending on my physical condition. I do not practice to stabilize my mentality. I try to practice to correct my technique, strategy, and sensation.

——How do you keep yourself motivated to compete?

Shiraki: If I have a big motivation, my motivation will be affected by the results, so I don't feel like it is motivation. I see matches as an extension of practice, and I think about what I have changed or grown from my previous self. I challenge myself to many matches by thinking about how to control the fear and nervousness of the match and as a place where I can further improve my thinking and skills. I am thinking about challenging myself.

——This year you won Marianas Pro and will compete in Marianas Open in Guam in fall. What



ギだけでなくノーギでも無敗を誇る白木はファイトスタイルそのままに連勝を続けている。

Shiraki, who is undefeated in NO-GI as well as GI, continues his winning streak with his fighting style intact.



対戦相手が不在の場合は年齢カテゴリーを下げてアダルトに参戦することもある。トーキョースプリングでは巨漢のデヴィッド・ヌネス(INFIGHT JAPAN)とアダルト黒帯オープンクラス決勝戦で対戦し、見事に優勝。

When no opponents are available, he sometimes competes in Adult division, moving down an age category. In Tokyo Spring, he faced giant David Nunes (INFIGHT JAPAN) in Adult Black Open Class finals, and won with a submission victory.

ロールするか、そして自分の思考や技術をより研鑽できる場として考えることで多くの試合に挑戦しようと考えています。

——今年はマリアナスプロで優勝して、秋にグアムで開催されるマリアナスオープンに出場します。グアムにはどんなイメージがありますか？

白木：グアムに関しては第1回のマリアナスオープンのスーパーファイトで試合をした思い出の地で、人も気候も暖かくて柔術や格闘家に対してリスペクトを感じる素晴らしい場所ですね。余生はできたらグアムに住みたいぐらい大好きな場所でもあります(笑)。

——マリアナスオープンではマスター1やアダルトの無差別で優勝すると賞金が獲得できます。年齢カテゴリーを下げて、その賞金を狙う気持ちはありますか？

白木：基本は勝てる可能性のある戦いしかしないので、自分の現在の立ち位置を考えて年齢カテゴリーを下げて戦うことはありません。仮にカテゴリーに相手がいないれば戦わない選択はないので試合するかもしれませんが。

——昨年はフィリピン・セブで開催されたプロ柔術「ARTフィリピン」にも出ました。あの大会の思い出などはありますか？

白木：セブの街並みと人達の生きる活力、遅しさに

kind of image do you have of Guam?

Shiraki: As for Guam, I have fond memories of competing in first Marianas Open Superfight, and it is wonderful place where the people and climate are warm and I feel respect for Jiu Jitsu and martial artists. It is also a place I love so much that I would like to live in Guam for the rest of my life if I could (laughs).

——At Marianas Open, you can win prize money for winning Master 1 and Adult open class categories. Do you have any desire to aim for that prize money by moving down an age category?

Shiraki: Basically, I only fight fights that I have a chance of winning, so I would never fight in a lower age category considering my current position. If there is no opponent in my category, I might fight because I have no choice but not to fight.

——Last year, you competed in ART Philippines, a professional Jiu Jitsu event held in Cebu, Philippines. Do you have any memories of that event?

Shiraki: I was impressed by the cityscape of Cebu and the vitality and resilience of the people. The event itself was held in a nightclub, so it was very exciting. I also have good memories of river rafting with the competitors after the event. I was exhausted from the hard leisure activities that would have been unthinkable



最近の試合では自ら引き込んでガードから攻めていく場面も見られる。戦い方の幅も広がっており、オールラウンダーとしての成長度合いが著しい。

In recent matches, there have been times when he has pulled guard himself in and attacked from the guard. His fighting style has been broadening, and he has remarkably developed as an all rounder.

感動しました。大会自体もナイトクラブでやったのでとても刺激的でした。大会後に選手達で川下りをしたのも良い思い出です。日本では考えられないハードなレジャーでクタクタになりましたが、また行きたいと感じさせるものでした。

——今夏に開催されるプロ柔術「ART.6」にも出場が決まっています。どんな相手と戦いたいですか？

白木：プロ柔術に呼んで頂けることを大変光栄に思います。どんな相手と戦いたいというのはあまりなくて、自分自身の成長につながり、皆さんや大会が望む相手であれば嬉しいと思います。

——ASJJFのレギュラートーナメントにプロマッチ、さらにその他の大会にもたくさん出ています。ルールの違いなどで戸惑うことはありませんか？

白木：ルール自体で戸惑うことはあまりないです。全てを格闘技として考えたらあまり差異はないと思っています。自分自身の戦いをするだけになります。

——2025年も半ばとなりました。下半期に向けての目標を教えてください。

白木：沢山の大会にエントリーしているので、まずは怪我をしない無理をしない。そしてマスター柔術家として勝ち負けも含めて自分自身の生きてきた証を残せるような試合をしていきたいです。



マリアナスプロ東京 & 名古屋の2大会連続で2階級制覇を果たし、グアムで開催のマリアナスオープン参戦が決定しており、今秋は久しぶりのグアムでの大会参戦となる。

He won Marianas Pro Tokyo and Nagoya, two consecutive two-division championships, and is scheduled to compete in Marianas Open in Guam, which will be his first tournament in Guam in a long time this fall.

in Japan, but it made me want to go back again.

—— You are also scheduled to compete in professional Jiu Jitsu event “ART.6” to be held this summer. What kind of opponent would you like to fight?

Shiraki: I am very honored to be invited to compete in pro Jiu Jitsu. I don't really have a preference for the kind of opponent I want to fight, but I would be happy if it would lead to my personal growth and be the kind of opponent you and the tournament want me to fight.

—— You are competed in ASJJF regular tournaments, pro matches, and many other tournaments. Are there any differences in the rules that confuse you?

Shiraki: The rules themselves don't really confuse me. If you consider everything as a martial art, I don't think there is much difference. I just have to fight my own battle.

—— We are now halfway through the year 2025. What are your goals for the second half of the year?

Shiraki: I have entered many tournaments, so first of all, I will not get injured and will not push myself too hard. Then, as a master jiu-jitsu fighter, I would like to have fights where I can leave proof of my own life, including wins and losses.



ASJJFの年間ランキングアワードが開催

ASJJFでは1年間の戦績をもとに年間ランキングを制定しており、その2024年度のランキングアワードが愛知県武道館で開催されたアジアマスターズ&キッズの大会内にて行われた。これは個人とチーム、そしてプロフェッサーの3部門があり、個人ランキングでは200ポイント以上の選手が表彰されており、副賞の賞金10万円も贈呈されている。またチームランキングはアダルト・マスター・キッズの3部門があり、プロフェッサーランキングは上位3位までの表彰が行われ、記念のプラークが贈呈された。ASJJFは今後もこういった年間ランキングの制定と表彰を行っていくが、この年間表彰は選手やチームの大きなモチベーションとなっているのは間違いないだろう。

ASJJF has established an annual ranking system based on one year's results, and its 2024 ranking awards were presented during Asia Masters & Kids tournament held at Aichi Budokan. There are three categories: individual, team, and professors. In individual ranking, awards were given to competitors with 200 points or more, with a prize of 100,000 yen. There were also three team ranking categories, Adult, Master, and Kids, and the top three places in Professor ranking were awarded and presented with commemorative plaques. ASJJF will continue to establish and award these annual rankings, and these annual awards are sure to be a great motivation for competitors and teams.



プロフェッサーランキングではヨースキ・ストーリー (Impacto Japan BJJ)、ヘナート・シウバ (INFIGHT JAPAN)、ブルーノ・イシイ (Impacto BJJ)、カーロス・トヨタ (カーロストヨタ BJJ) が表彰された。



チームランキングではOver Limit BJJ、INFIGHT JAPAN、Impacto BJJ、カーロストヨタ BJJ、EVOX BJJ が表彰されている。



Jiu Jitsu in Paradise GUAM

南の島・グアムの柔術シーンが盛り上がっている。
グアムのみならずアジアエリアでトライアルイベントを多数開催し、
そこで優勝した精鋭たちがグアムに集い、
マリアナスオープンでの賞金争奪戦に参加するのだ。
このトライアルイベント全4大会を徹底レポートする。



01

1.25,2025(sat)

UOGフィールドハウス
(グアム・タムニン)COPA DE
MARIANAS 2025

グアムの2大会の1つ、コパデマリアナス。グアムの柔術シーンの上半期はコパデマリアナス、下半期はマリアナスオープンに向けて盛り上がっている。

グアムの精鋭たちが集ったコパデマリアナス

ローカルの選手たち同士の好勝負が続出



マスター 30 黒帯ミディアムヘビー & オープンクラスで優勝してWゴールド獲得のアンソニー・クルーズ(カーウソングレイシグアム)。デヴィッド・ハリスとフランク・カマチョのPUREBRED GUAMの2人から連勝している。

Anthony Cruz (CARSON GRACIE GUAM) won Master 30 Black Medium Heavy and Open classes to earn W Gold. He won back-to-back wins from David Harris and Frank Camacho of PUREBRED GUAM.



アダルト茶帯オープンクラスにのみ出場したケネス・レデスマ(ATOS GUAM)は軽量級だが、対格差をはねのけて無差別級制覇。決勝戦はチャド・アダ(PUREBRED GUAM)から腕十字を極めて一本勝ちした。

Kenneth Ledesma(ATOS GUAM), who competed only in Adult Brown Open Class, was a lightweight but overcame disparity to win uncontested division. In the finals, he won by armbar from Chad Ada (PUREBRED GUAM).



マスター 30 黒帯 フェザーはロイド・クバカブ(ATOS GUAM)とリチャード・エンリケ(PUREBRED GUAM)のワンマッチ 決勝戦。試合は絞めを極めたロイドがポイントで勝利して優勝。

Master 30 Black Feather was one-match final between Lloyd Cubacub (ATOS GUAM) and Richard Enriquez (PUREBRED GUAM). Lloyd won match on points.



茶帯になってからは優勝から遠ざかっているマイク・シノハラ(ATOS GUAM)。今大会ではアダルト茶帯ヘビーでチャド・アダ(PUREBRED GUAM)に敗れて準優勝、オープンクラスは3位となっている。

Mike Sinohara (ATOS GUAM) has been on winning streak since becoming a brown belt. In this year's tournament, he was runner-up in Adult Brown Heavy with a loss to Chad Ada (PUREBRED GUAM) and third in Open Class.



アダルト茶帯ミディアムヘビー決勝戦はニコラス・ブラウン(PUREBRED GUAM)とジェフ・メサ(ハイツアカデミー)の対戦。巧みなガードワークで相手を翻弄したニコラスが判定で勝利した。

Adult Brown Medium Heavy final match was between Nicholas Brown (PUREBRED GUAM) and Jeff Mesa (Heights Academy). Nicholas Brown won by decision, using his skillful guard work to subdue his opponent.



ケルビン・ゲンタパン(バレットサブミッション)が優勝したマスター30黒帯ミドルは決勝戦でグアムのベテラン黒帯、オリバー・クルーズ(PUREBRED GUAM)に勝利しての金メダル獲得だった。

Kelvin Centapanan (Baret Submissions) won Master 30 Black Middle, winning gold medal with a victory over Guam's veteran black belt Oliver Cruz (PUREBRED GUAM) in final.



女子アダルト紫帯のライト&オープンクラス優勝のメリッサ・メノ(ATOS GUAM)。ライト決勝戦はジェナ・レイジュス(カウソングレイシーグアム)に、オープンクラス決勝戦はユニス・カストロ(Figo' / ボンサイ)にそれぞれ勝利を果たす。

Melissa Meno (ATOS GUAM) was Light and Open Class winner in female Adult Purple Belt. She won light final against Jenna Reyes (CARLSON GRACIE GUAM) and open class final against Eunice Castro (Figo' / Bonsai).



まだキッズ帯の橙帯ながらアダルト青帯でも実績を残すティアナ・アダモス(ATOS GUAM)。昨年のマリナスオープンでもアダルト青帯で優勝しており、実力はすでにオトナ顔負けだ。

Tana Adamos (ATOS GUAM) is still a kid's orange belt, but she is also an accomplished adult blue belt. She also won Marianas Open last year as an adult blue belt.



ティアナ・アダモス(ATOS GUAM)はがだけでなくノーギでも優勝し、ギでWゴールド、ノーギでも優勝で3つの金メダルを手に入れている。ティアナはグアムの次代の有望選手として要注目だ。

Tana Adamos (ATOS GUAM) won not only Gi but also NO-GI, taking three gold medals with W Gold in GI and No-GI win. Tana is one to watch as Guam's next promising athlete.



大会ではアンソニー・クルーズ(カウソングレイシーグアム)へ表彰セレモニーが行われた。アンソニーには黒帯の「年間最高選手賞」が贈呈され、記念盾が手渡されている。

An award ceremony was held at tournament for Anthony Cruz (Carlson Gracie Guam). Anthony was presented with "Black Belt of the Year" award and handed award plaque by Marianas Open representative Steve Shimizu and ASJJF President Edison Kagohara.



グアムの大会ではキッズの試合も数多く行われている。ギもノーギも盛況で、キッズたちの元気な試合ぶりが数多く見られた。

There were many kids competition at Guam tournament. Gi and NO-GI both was a great success, and there were energetic matches by kids.



大会会場のFOGフィールドハウスはマット6面で開催されているが、今後はマットを増設して8面での開催予定とのこと。大会を行うことに規模が大きくなっているグアムの柔術シーンの活況ぶりは素晴らしい。

FOG Field House, venue for tournament, has been held on six mats, but plan is to add more mats and hold tournament on eight mats. Guam Jiu Jitsu scene is booming, with each tournament getting bigger and bigger.



チーム表彰でマスター & アダルトで1位を獲得したATOS GUAM。キッズカテゴリーのみ1位を逃して2位に終わる。そのATOSの完全制圧を阻んだFigo' / ボンサイが1位となっている。

ATOS GUAM took first place in Master and Adult categories in team awards, missing out on first place in Kids category only to finish in second place. Figo' / Bonsai, which prevented that ATOS from completely dominating competition, took first place.

MARIANAS PRO TOKYO 2025



二人ともマリアナスオープンの本戦出場経験者であるマルロン・ゴドイ(ボンサイ柔術)とシャビエル・シウバ(EVOX BJJ)がアダルト黒帯オープンクラス決勝戦で激突。結果はマルロン勝利で2年連続本戦出場が決定。

Marlon Godoy (Bonsai Jiu Jitsu) and Xavier Silva (EVOX BJJ), both former competitors in Marianas Open, clashed in Adult Black Open Final. Result was a victory for Marlon, and he will compete in Marianas open for second year in a row.



マリアナスプロ東京は本戦出場者が多数出場

マルロン、フェルナンダ、トーマスらが激勝



女子のアダルト黒帯で優勝したのはフェルナンダ・クリスト(EVOX BJJ)で、フェルナンダも2年連続出場を決めた。ミディアムヘビーとオープンクラスの決勝戦でカロリーナ・クワハラ(INFIGHT JAPAN)と2連戦で2連勝。

Winning travel pack in female adult black was Fernanda Cristo (EVOX BJJ), who also qualified for the second year in a row. She won two consecutive matches against Carolina Kuwahara (INFIGHT JAPAN) in finals of medium heavy and open classes.



マスター30黒帯オープンクラスで優勝したトーマス・ミッツ(CARPE DIEM JIYUGAOKA)も過去に何度も本戦出場を経験している。昨年のマリアナスオープンでは家族を帯同しての出場で試合と観光を楽しんでいた。

Thomas Mietz (CARPE DIEM JIYUGAOKA), winner of Master 30 Black Open Class and travel pack, has also competed in this tournament many times in the past. He brought his family to Marianas Open last year and enjoyed competition and sightseeing.



女子マスター30黒帯でフェザーとオープンクラスで優勝してWゴールド獲得の高本奈月(TATORU)はグアムのジェリカ・レイジェスと台湾のドミニク・ファンに勝利しての金メダル&トラベルパック獲得だった。

Female Master 30 black division Natsuki Takamoto (TATORU), who won feather and open classes to earn W gold, won gold medal and travel pack with wins over Jerica Reyes of Guam and Dominique Huang of Taiwan.



女子アダルト黒帯ライトフェザーで優勝したミレーナ・サクモト(ALMA FIGHT GYM HOMIES GIFU)もマリアナスオープン本戦出場経験者。今大会では決勝戦で山田海南江(IGLOO)に判定勝ちしたが、オープンクラスには出場せずだった。

Milena Sakumoto (ALMA FIGHT GYM HOMIES GIFU), winner of female adult black light feather, has also competed in Marianas Open last year. She won by points over Kanae Yamada (IGLOO) in finals, but did not compete in open class.



グアムから来日して出場したフランススカ・リザマ(PUREBRED Guam)が女子アダルト茶帯ライト&オープンクラスで優勝しWゴールド。副賞のグアムへのトラベルパックは準優勝のヘナター・ハルミ(INFIGHT JAPAN)に譲渡している。

Francesca Lizama (PUREBRED Guam), who came from Guam to compete, won Female Adult Brown Light & Open Class and W Gold. Extra prize, a travel pack to Guam, was given to Renata Harumi (INFIGHT JAPAN) who took 2nd place.



今年は韓国でマリアナスプロが開催されなかったため、韓国からの参戦が多かった。アダルト茶帯オープンクラスで優勝したソン・ウォンジェ(ビクターアカデミー)は念願のマリアナスオープン参戦が決定。

Since Marianas Pro was not held in Korea this year, many competitors came from Korea. Winner of Adult Brown Belt Open, Song Wonjae (Victor Academy), was crowned after defeating Rei Nagao in semi finals and Toi Sato both from CARPE DIEM SENDAI in finals.



アダルト紫帯オープンクラス決勝戦は韓国人同士の対戦に。セオ・ハンギョル(ASM BJJ)とチョン・ソンヒョク(チーム・クラウン・ジンヘ)が戦ってセオが勝利してトラベルバックを獲得。

Adult Purple Open final was between Koreans. Seo Hangeul (ASM BJJ) and Jeong Seonghyeok (Team Crown Jinhe) fought and Theo won to go to Guam.



昨年のマリアナスプロでは決勝戦で惜敗した奥富タ夏(リバーサルジム新宿Me,We)が今年はリベンジ優勝。女子アダルト紫帯オープンクラスで澤井佑夏(CARPE DIEM ASHIYA)に勝利して優勝を果たす。

Yuka Okutomi (MeWe), who narrowly lost in finals at last year's Marianas Pro, took a revenge win this year. She won female adult purple openfinal against Yuka Sawai (CARPE DIEM ASHIYA) and decided to go to Guam, which was her long-cherished wish.



アダルト青帯オープンクラス決勝戦でグスタボ・ナカハラ(カーロストヨタBJJ)に勝利して優勝したのはシンガポールから参戦してきたユエ・シア(イヴォルブMMA)。マリアナスプロにはアジア全域から選手が参戦していた。

The winner of Adult Blue Open final with a victory over Gustavo Nakahara (Carlos Toyota BJJ) was Yue Shea (Evolve MMA) from Singapore. Marianas Pro is an international tournament with many competitors from all over Asia.



女子アダルト青帯オープンクラス決勝戦はニコリー・セキタニ(セキタニ柔術アカデミー)とハファエラ・アユミ(INFIGHT JAPAN)のライバル対決。試合は三角絞めを極めたニコリーが一本勝ちで優勝している。

Female adult blue open final was a rivalry match between Nicolly Sekitani (Sekitani Jiu Jitsu Academy) and Rafaela Ayumi (INFIGHT JAPAN). Nicolly won match with a victory by tap after she locked in triangle choke.



チーム表彰のアダルト部門で1位になったのはINFIGHT JAPAN。2位はカーロストヨタBJJで、3位にはアメリカ・サンディエゴのバレット・ヨシダのジム、バレットサブミッションが入賞している。

First place in adult division of team awards went to INFIGHT JAPAN, second place went to Carlos Toyota BJJ, and third place went to Baret Submission, Baret Yoshida's gym in San Diego, USA.

MARIANAS PRO NAGOYA 2025

昨年に引き続き開催されたマリアナスプロ名古屋大会は国内外の強豪が集い、激しい試合の数々でグアムへのトラベルバック争奪戦が繰り広げられた。

柔道家・佐々木健志が鮮烈な柔術デビュー

全試合一本勝ちでWゴールド獲得



今大会で大きな注目を集めていたのが柔道家・佐々木健志 (CARPE DIEM JIYUGAOKA) の柔術デビュー戦。佐々木はアダルト紫帯のミディアムヘビー & オープンクラスの全試合一本勝ちで圧勝してのWゴールド獲得だった。

Judo-ka Kenshi Sasaki (CARPE DIEM JIYUGAOKA) made his Jiu Jitsu debut at this tournament, attracting a great deal of attention. Sasaki won W Gold by dominating all of his matches in Adult Purple Medium Heavy and Open, winning by submission.



アダルト黒帯オープンクラスの決勝戦はマルロン・ゴディイ(ボンサイ柔術)とマイク・オオウラ(IGLOO)の初対決。途中でマイクのギが破れるアクシデントがありながらもマルロンが危なげなく勝利し、東京 & 名古屋のマリアナスプロ2連覇を達成。

Adult Black Open final was first time Marlon Godoy (Bonsai Jiu Jitsu) and Myke Ohura (IGLOO) met. Marlon won without a hitch, despite an incident during the match in which Myke's gi was torn, and won his second consecutive Marianas Pro in Tokyo and Nagoya.



マリアナスプロ東京大会では惜しくも準優勝だった永尾澤(CARPE DIEM SENDAI)が悲願の優勝。アダルト茶帯のフェザーとオープンクラスで優勝しWゴールド、グアムへのトラベルバックも獲得した。

Rei Nagao (CARPE DIEM SENDAI), who was a close runner-up at Marianas Pro Tokyo, won in this tournament. He won Adult Brown Feather and Open, earning W Gold and travel pack to Guam.



アダルト青帯オープンクラスで優勝した壁谷亮佑 (EVOX BJJ) は柔道ベースのパワフルな柔術が持ち味。参加者数20名というビッグトーナメントを制してヘビーの一人優勝と併せて2つの金メダルとトラベルバックを手中に収めた。

Ryosuke Kabeya (EVOX BJJ) won Adult Blue Open with his powerful judo based Jiu Jitsu. He won a big tournament with 20 competitors and took home two gold medals and travel pack, along with the lone heavyweight title.



表彰台をカーロストヨタBJJが独占しつつある中、準優勝したケウ・ミゲル (EVOX BJJ) の健闘ぶりが光った。優勝はエンゾ・ヤマザトで、3位にはクリスチャン・マツオ & ジョアオ・コバヤシが並んだ。

While the podium was being dominated by Carlos Toyota BJJ runner-up, Kael Miguel (EVOX BJJ), did well. The winner was Enzo Yamazato, with Christian Matsuo & Joao Kobayashi in third place.



女子のマスター 30黒帯オープンクラスはプリシラ・ゴンサウベス (ボンサイ柔術) とアリーネ・サカモト (イヴァンサカモトBJJ) のワンマッチ決勝戦。階級別でも対戦していたが、結果はプリシラが2連勝してグアム行きを決めた。

Female Master 30 black open was a one match final between Priscilla Goncauves (Bonsai) and Aline Sakamoto (Ivan Sakamoto BJJ). They were also competing in their weight division, but result was Priscilla's second straight win and travel pack to Guam.



グアムのフランセスカ・リザマ (PUREBRED グアム) と日本の中山有加 (Yawara) による女子茶帯トップ対決となったアダルト茶帯オープンクラス決勝戦。フランセスカのガードをパスした中山が3-0で勝利して優勝を果たす。

Female adult Brown Open final between Guam's Francesca Lizama (PUREBRED Guam) and Japan's Yuka Nakayama (Yawara) was the top female brown belt matchup. Nakayama passed Francesca's guard to win 3-0 and take Gold.



女子アダルト紫帯オープンクラス決勝戦は柳朝海 (MASTER JAPAN TOKYO) とアユミ・カナシロ (ボンサイ柔術) の間で争われ、アユミをパスした柳がサイドからキムラを極めて一本勝ちで優勝し、ミドル & オープンで2冠。

Female adult purple open final was fought between Asami Yanagi (MASTER JAPAN TOKYO) and Ayumi Kanashiro (Bonsai Jiu Jitsu), with Yanagi passing Ayumi and winning by tapout with a kimura from the side to win the middle and open class titles.



女子アダルト青帯オープンクラスの優勝は鈴木清香 (EVOX BJJ)。階級別のフェザーではニコリー・セキタニに敗れるも、オープンクラスではミカエラ・マキヤマと中尾あづきに勝利してグアム行きを決めている。

The winner of Female adult blue open was Seika Suzuki (EVOX BJJ). She lost to Nicolly Sekitani in feather final, but won open class with victories over Mikaela Makiyama and Azuki Nakao to make trip to Guam.



昨年のマリアナスプロ名古屋でも優勝しているルーカス・ヒロサワ (INFIGHT JAPAN) が今年も連覇し、マスター 30黒帯ウルトラヘビー & オープンクラスで2冠。昨年に引き続きグアムのマリアナスオープン参戦が決定。

Lucas Hirosawa (INFIGHT JAPAN), who also won last year's Marianas Pro Nagoya, won again this year, winning two titles in Master 30 Black Ultra Heavy and Open classes. He will continue his participation in Marianas Open in Guam, as he did last year.



マスター 41黒帯スーパーヘビー & オープンクラス優勝のレアンドロ・クサノ (クサノチーム) もグアムへのトラベルバックを獲得。最近では試合から離れていたが、久しぶりの大会出場も相変わらずの極めの強さを発揮している。

Master 41 black super heavy and open class winner Leandro Kussano (Kussano Team) also won a travel pack to Guam. He has been away from competition recently, but his first tournament appearance in a while was as strong as ever in terms of polarity.

5-6.4, 2025 (Sat-Sun)

アラバンフェスティバルモール
(フィリピン・マニラ)

MARIANAS PRO MANILA 2025

ショッピングモールの中で開催の大会は

フィリピン vs 海外の国際戦多数



グアム最強の黒帯であるアンソニー・クルーズ(カーウソングレイシーグアム)がマニラに襲来。アダルト黒帯オープンクラス決勝戦でアンソニー・アヤラ(グレイシーバハオーシャンサイド)と戦い、27-2で勝利。副賞のトラベルバックはアンソニーに譲った。

Guam's best black belt, Anthony Cruz (Carson Gracie Guam), attacked Manila. He fought Anthony Ayala (Gracie Bach Oceanside) in Adult Black Open final and won 27-2. Cruz gave travel pack prize given to Ayala.



今大会が黒帯デビュー戦だった平澤拓(PATO STUDIO)は階級別は計量オーバーで失格もマスター 36黒帯オープンクラスでは2試合を勝利して優勝。昨年に続き、グアムでのマリアナスオープン参戦を決めている。

Hiroshi Hirasawa (PATO STUDIO), who was making his black belt debut at this tournament, but disqualified for overweight in his division. However won two matches in Master 36 black belt open to win get gold.



アダルト茶帯オープンクラス決勝戦は韓国人のイ・ゴンジュンとフィリピン人のマイケル・ボルハのチェックマット同士の国際戦。試合はフレンドリーマッチのようになり、7-2でイが勝利した。

Adult Brown Open final was an international match between Korean Lee Geonjun and Filipino Michael Borja on CHECKMAT. The match turned out to be a friendly match with Lee winning 7-2.



延長戦のサunders決着となったアダルト黒帯ライトフェザー決勝戦のグレゴリオ・アバロス(チェックマトフィリピン)とラム・モラレス(コブリンヤ・マニラ)の試合はトータルで15分以上の大激戦で、最後にスweepを決めたグレゴリオが勝利。

Adult black light feather final between Gregorio Albalos (Checkmat Philippines) and Ram Morales (Cobrinha Manila), which was sudden death in overtime, was a huge battle lasting over 15 minutes in total, with Gregorio winning with a sweep at the end.



マスター 41黒帯のミドルとオープンクラスの決勝戦で2度の対戦となったアリ・スリット(AOYAMA Jiu Jitsu)とジョシュア・サントス(VIDA)のフィリピンvsグアムの国際戦はアリが2試合連続の勝利を果たす。

Ali Slit (AOYAMA Jiu Jitsu) and Joshua Santos (VIDA) met twice in Master 41 black middle and open finals, with Ali winning Philippines vs Guam international match for second straight time.



女子の茶帯の試合はフランセスカ・リザマ(PUREBREDグアム)とサラ・アントニオ(ATOS)のワンマッチ決勝戦2連戦で、グアムから参戦のフランセスカが2試合とも絞めて一本勝ち。

Female brown belt match was second straight one-match final between Francesca Lizama (PUREBRED Guam) and Sarah Antonio (ATOS), with Francesca from Guam, submitted both matches by choke.



今大会にはチェックマトの創始者、レオジニョことレオ・ヴィレイラが来訪。マリアナスオープン主催者のスティーブ・シミズとの会談が実現し、大会についての意見交換が行われた。

Founder of Checkmat, Leo Villeira aka Leozinho visited tournament. He met with Marianas Open organizer Steve Shimizu to exchange ideas about the tournament and Guam's BJJ Scene.



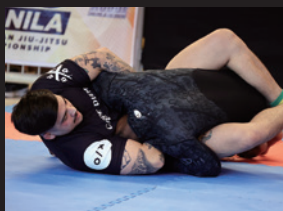
キッズの中で突出した試合ぶりを見せていたのが女子のヤニ・ロベス(デフタック・シックスブレイズ)だ。ASJJFのフィリピンランキングのトップランカーで今大会でも女子キッド6黄帯ルースター決勝戦を一本勝ちで優勝した。

Prominent among kids divisions was Yani Lopez (Defeat Six Blades), the top-ranked competitor in ASJJF's Philippine rankings, who also won female Kid 6 Yellow Rooster final by choke.



ノーギのアダルト黒帯はオープンクラスのみが行われた。グアムから参戦のトレヴィン・ジョーンズ(VIDA)と中国から参戦してきたアフォンソ・セゴ(ショウファイト・ドリームチーム)が対戦し、トレヴィンがRNCでタップを奪った。

NO-GI adult black division is open class only. Trevin Jones (VIDA) from Guam and Alfonso Sego (Show Fight Dream Team) from China fought, with Trevin getting tap via RNC.



ともに1回戦を絞めて一本勝ちしたトレヴィン・ジョーンズとアンソニー・アヤラ(グレイシーバハオシャンサイド)はアンソニーがギロチンチョークで極めて勝利。アンソニーはいまフィリピンのCARPE DIEMに在籍している。

Trevin Jones and Anthony Ayala (Gracie Bach Oaks), who both won their first round bouts by choke, Anthony won by guillotine choke. Anthony is join CARPE DIEM in Philippines now.



チーム表彰で1位を独占したのはデフタック・シックスブレイズだった。ギとノーギのアダルトとキッズの4部門それぞれで1位となり、数多くのトラベルバックを獲得している。

Defeat Six Blaze dominated first place in team awards. Defeat Six Blaze took first place in each of four divisions of GI and NO-GI Adults and Kids, and won numerous travel packs.

4.26-27, 2025 (Sat-Sun)

台北信義スポーツセンター
(台湾・台北)

MARIANAS PRO TAIWAN 2025

マリアナスプロシリーズの最終戦は初開催の台湾大会。

2日間で 1200 人参加となった今大会は過去最大規模の大会となり新記録を樹立している。



初開催のマリアナス台湾大会は

1200 人以上を集め史上最大大会に

アダルト黒帯のミディアムヘビー & オープンクラスで2度の決勝戦を戦ったラファエル・ミランダ (UFC GYM TAIWAN) チアゴ・フェルナンデス(マーシャルアーマー MMA & フィットネス) はラファエル2連勝でトラベルバックを獲得。

Rafael Miranda (UFC GYM TAIWAN) and Thiago Fernandez (Marshall Armor MMA & Fitness) fought two finals in Adult Black Medium Heavy and Open classes, with Rafael winning his second straight travel pack.



女子アダルト紫帯オープンクラスで優勝したキンバット・バタイ(新竹BJJ)は決勝戦で焔好東(UFC GYM TAIWAN)に危なげなく勝利している。キンバットはグアムでの本戦でも活躍が期待できるだろう。

Kimbat Batai (Hsinchu BJJ), winner of female Adult Purple Belt Open Class, won her final match against Yu Dong (UFC GYM TAIWAN). She will be expected to do well in Guam.



ダン・レイド(キャッチ柔術)が優勝したマスター 36黒帯オープンクラスは決勝戦で韓国から出場のジャン・インセオン(ATOS KOREA)に勝利してグアム行きが決定。ダンも台湾在住のアメリカ人でその実力者ぶりには定評がある。

Rei Nagao (CARPE DIEM SENDAI), who was a close runner-up at Marianas Pro Tokyo, won in this tournament. He won Adult Brown Feather and Open, earning W Gold and travel pack to Guam.



アダルト茶帯オープンクラス決勝戦はサミュエル・ティスデール(台湾BJJ)と方冠傑(UFC GYM TAIWAN)の対戦。試合は次々にポジションを奪っていったサミュエルが10-0という大差の判定勝ちで制している。

Adult Brown Belt Open Class final was Samuel Tisdale (Taiwan BJJ) vs Fang Kuan-chieh (UFC GYM TAIWAN). Samuel won this match by 10-0.



アダルト紫帯オープンクラスはレドゥアン・シェリフ(台湾BJJ)が優勝。レドゥアンは階級別の試合には出場せずに、このオープンクラスにのみ出場して金メダルとトラベルバックを獲得している。

Adult Purple Belt Open Class was won by Redouane Cherif (Taiwan BJJ). Redouane didn't compete in weight division, but only in this open class, winning the gold medal and travel pack.



圧倒的な強さで女子アダルト青帯オープンクラスを優勝したチョウ・タオウェン(台湾BJJ)。海外大会でも結果を残す実力者だけに、この圧勝ぶりも納得だ。

Chou Tao Wen (Taiwan BJJ) won female adult blue belt open class with overwhelming strength. She is strong competitor who has been successful in international tournaments, so her overwhelming victory was understandable.



グアムから参戦してきたドン・ペドロ・クルス(Figo/ボンサイ)はジュブナイル青帯フェザーで準優勝だったが、ノーギではワンマッチ決勝戦で優勝を果たす。グアムの選手も台湾で活躍し大きな話題となった。

Don Pedro Cruz (Figo/Bonsai) from Guam was got silver in Juvenile Blue Belt Feather, but won in No-Gi. Athletes from Guam also made a big splash in Taiwan.



台湾のグアム政府観光局・社長兼CEOのレジナー・ビスコー・リー氏が大会を視察し、選手たちを激励。会場での熱気ぶりに大いに関心していた。

Guam Visitors Bureau in Taiwan President and CEO, Ms.Regine Biscoe Lee visited tournament and encouraged athletes. He was greatly interested in enthusiasm at the venue.



会場には台湾のグアム政府観光局のPRブースも設置され、グアム旅行をアピールするパンフレットや記念品の配布も行われた。大会参加者たちへグアムの認知度アップに大いに貢献している。

Guam Visitors Bureau in Taiwan made PR booth in this tournament, where leaflet and souvenirs promoting travel to Guam were distributed. This booth contributed greatly to raising awareness of Guam among the convention participants.

グアムを代表する女子選手である
フランチェスカ・リザマは
グアムでの大会はもとより、
海外の大会でも活躍する国際派。
大の親日家でもあり、日本にも
頻繁に来日して大会参戦している
新進気鋭の柔術家だ。



Lizama

マリアナスオープンの雰囲気は 熱狂的でサポートは比類なく、 大会のレベルは毎年上がり続けている

——今年はマリアナスプロのトーナメントで何度も優勝していますね。今のお気持ちはいかがですか？

フランチェスカ：自分の島とチーム、ピュアブレッド柔術グアムを代表することができ、とても感謝していますし、誇りに思います。アカデミーで毎日一緒に働いている生徒たち、特に子供たちのおかげでやる気と刺激を受けています。私が模範となり、他の人たちにインスピレーションを与えてトレーニングに励みたいと思います。

——あなたは東京、名古屋、マニラのマリアナスプロに出場していましたが、なぜ台湾大会には出場しなかったのですか？

フランチェスカ：台湾でも試合をしたかったのですが、残念ながら私の階級では対戦相手がいませんでした。将来は絶対に台湾で試合をしたいと思っています。

——あなたは大会出場のために何度も来日していますね。日本の印象はどうか？

フランチェスカ：日本は素晴らしいですね。文化や柔術のコミュニティが大好きです。日本で頻繁に試合をすることで、顔見知りがたくさんいて居心地がいいん

——You have won many tournaments at Marianas Pro this year. How do you feel now?

Francesca: I feel incredibly grateful and proud to represent my island and my team Purebred Jiu Jitsu Guam Headquarters. I am motivated and inspired to train because of the students most especially the children that I work with everyday in the academy. I'd like to lead by example and inspire others to train.

——You competed in Tokyo, Nagoya, and Manila. Why didn't you compete in Taiwan?

Francesca: I was really hoping to compete in Taiwan, but unfortunately, I didn't have an opponent in my weight division. I definitely want to compete there in the future?it's on my radar.

——You came to Japan a lot to compete. What is your impression of Japan?

Francesca: Japan is amazing. I love the culture, and the Jiu Jitsu community out there. By competing so often in Japan, I feel at home with knowing so many familiar faces. Every trip to Japan inspires me to keep chasing

フランチェスカ・リザマ

Francesca

です。日本へ行くたびに、自分の夢を追いかけて続けようと思うと奮い立たせてくれるし、競技をしたり学んだりするのに美しい場所だし、いつも柔術をより深く理解して帰ることができますね。

——日本人選手との試合で最も印象に残っている試合はありますか？

フランチェスカ：一番印象に残っているのは、グアム

my dreams, it's a beautiful place to compete and learn, and I always leave with a greater appreciation for the art of Jiu Jitsu.

——Which match against a Japanese competitor was the most memorable? Please tell us why.

Francesca: One of the most memorable matches was in Guam against Renata Silva at the Mariana's



2月に開催されたマリアナスプロ東京大会では好敵手であるヘナータ・ハルミ(INFIGHT JAPAN)から勝利して優勝も、トラベルバックはヘナータに譲り、グアムでの再戦を誓い合っていた。

At the Marianas Pro Tokyo in February, she won with victory over her favorite opponent Renata Harumi (INFIGHT JAPAN), but gave up travel pack to Renata, who vowed to fight again in Guam.



東京大会の翌月には名古屋大会で再び来日。ここでは韓国から参戦してきたギム・ミナ(Jiu Jitsu Land)とワンマッチ決勝戦で勝利もオープンクラスは決勝戦で敗れ準優勝。

The month after Tokyo event, she came to Japan again for the Nagoya event. Here she won a one-match final against Kim Mina (Jiu Jitsu Land) from Korea, but lost in the open class final and finished 2nd place.

のマリアナスオープンでヘナータ・ハルミと戦った試合です。彼女とはここ数年、複数の大会で対戦しているんです。だからグアムで一番大きな大会で、最高レベルの試合をしたことが一番印象に残っていますね。島と柔術界にアピールできる素晴らしい試合だったので、私の柔術を披露できる機会に感謝しています。——マニラの大会では同じ相手と2度対戦し、いずれも勝っていますね。

フランチェスカ: どちらの試合も良かったし、国際的かつ最高レベルの大会でベリンボロのシークエンスに取り組めたことはとても良かったし、この機会にはいつも感謝しています。

——グアムの大会と他の国の大会の違いは何ですか？

フランチェスカ: グアムの大会は本当に協力的で、家族的な雰囲気があります。地元の誇りと情熱がとても伝わってきますね。そしてグアム以外の国際大会のレベルは間違いなく高く、スタイルや才能の幅も広いと感じています。

——グアムで開催されるマリアナスオープンでは常に優勝しています。マリアナスオープンの良さはどこにあると思いますか？

フランチェスカ: マリアナスオープンには、地元の柔術コミュニティが一体となり、島の才能を披露する特別な大会なんです。雰囲気は熱狂的で、サポートは比類な

Championships. I've competed against her in multiple competitions over the past few years. So it was the most memorable for me because we're both fighting at the highest level, in the biggest competition on island. It was a great match to showcase to the island and the Jiu Jitsu community, so I am grateful for the opportunity to display our Jiu Jitsu.

——You competed against the same opponent twice in Manila and won both. What did you think of those matches?

Francesca: Both matches were good, I loved being able to work on my berimbolo sequences internationally and at the highest level and I'm always grateful for the opportunity.

——What are the differences between tournaments in Guam and other countries?

Francesca: Tournaments in Guam have a really supportive, family-oriented vibe. I can see that there is so much local pride and passion. International events level is definitely high, with a wider range of styles and talent.

——You have always won the Marianas Open, the tournament in Guam. What do you think is good about the Marianas Open?

Francesca: The Marianas Open is special because it



4月にフィリピン・マニラで開催のマリアナスプロマニラではサラ・アントニオ(ATOS)とライト級とオープンクラスで2度の実戦で2連勝を果たした。

In April at Marianas Pro Manila in Manila, Philippines, she won back-to-back bouts with Sara Antonio (ATOS), twice in light weight and open class.



マリアナスオープンではヘナータ・ハルミ(INFIGHT JAPAN)と紫帯と茶帯で2度の実戦戦績があり、リザマが2連勝中。今年の大会でも対戦が濃厚で、毎回好勝負となっている。

At the Marianas Open, she and Renata Harumi (INFIGHT JAPAN) have fought twice at purple belt and brown belt, with Lizama winning twice in a row. They are likely to meet again at this year's tournament, and each time it has been a good match.

く、大会のレベルは毎年上がり続けていて、とてもハイレベルとなっていますね。

——今年のマリアナスオープンでも活躍が期待されます。大会に向けて、どのような準備をしますか？

フランチェスカ: 私のトレーニングは集中して意図的に行ってます。まずファンダメンタルを強化し、技を仕掛けるタイミングを研ぎ澄まします。ピュアブレッド柔術グアムで、素晴らしいチームと毎日練習しており、ストレングス&コンディショニングも自身のトレーニングの大きな部分を占めています。幸運なことに、パラダイス・フィットネスとスティーブ・オシロの素晴らしいサポートがあるから、1年を通して強く健康でいられます。

——これまでマリアナスオープンで獲得した賞金はどうに使ってきましたか？

フランチェスカ: 新しい最新式の洗濯機を買うことに使いました。これにより洗濯にかかる時間が大幅に軽減され、フルタイムのアスリートとしての生活が間違いなく向上しましたね。

——今年もマリアナスオープンで優勝して賞金を獲得したら、どのように使うつもりですか？

フランチェスカ: 自分の柔術のキャリアに投資し続けますよ。プロとして試合に出るために遠征すること多いし、柔術というスポーツや職業で夢を追求める上で、賞金は間違いなく旅費の足しになります。大会で賞金があることは本当にありがたいことです。

brings the local community together and showcases the talent we have on island. The atmosphere is electric, the support is unmatched, and the level of competition keeps getting better each year.

——You are expected to do well in this year's Marianas Open. How will you prepare for it?

Francesca: My training will be focused and intentional. I'm tightening my fundamentals, and sharpening my timing. I train daily at Purebred Jiu Jitsu Guam Headquarters with an incredible team. Strength and Conditioning will also be a big part of my training. I'm fortunate to have amazing support from Paradise Fitness and Steve Oshiro which helps me stay strong and healthy throughout the year.

——How have you spent the prize money you have won at the Marianas Open so far?

Francesca: I've invested in a washing machine, it's definitely improved my life as a full-time athlete.

——If you win the Marianas Open again this year and earn prize money, how do you plan to spend it?

Francesca: I'll continue to reinvest it into my Jiu Jitsu career. I travel a lot to compete professionally and the prize money will definitely help relieve travel expenses as I pursue my dreams in the sport and profession of Jiu Jitsu.

MARIANAS OPEN

INTERNATIONAL CHAMPIONSHIP

ASJJF
ASIAN SPORT JIU JITSU FEDERATION



**SATURDAY
OCTOBER 18**

**JIU-JITSU
IN
PARADISE**

GUAM

\$50,000.00 USD

MARIANAS OPEN INTERNATIONAL CHAMPIONSHIP

**REGISTER NOW!
WWW.ASJJF.ORG**

WWW.MARIANASOPEN.COM

毎年秋にグアムで定期開催されている「MARIANAS OPEN」は高額な賞金が用意されている賞金トーナメントだ、昨年の「MARIANAS OPEN」では賞金総額5万ドルという過去最高額となっていたが、この賞金額は今年も継続となった。また大会翌日には高級ホテルのバンケットルームを貸し切って行われたアワードセレモニーも開催されてグアムの柔術シーンの年間最大にして最重要イベントとして華々しく開催されているのだ。そんな「MARIANAS OPEN」だが、今年度からノーギも行われることとなった。いま世界的にノーギの大会開催の需要が高まっており、プロイベントの開催も数多く、そういった時流はこのグアムでも例外ではないようだ。また日本とグアムは飛行機で3時間半というアクセスのよさも人気で、時差も1時間というのも日本在住者にとっては好都合だろう。そして今年のマリアナスプロは東京・名古屋・マニラ・台湾と4大会が開催され、この大会での優勝者たちがこぞってグアムに乗り込んでくるが、その他にもアメリカ本土からビッグネームの参戦も噂されており、「MARIANAS OPEN」は昨年以上の規模で行われるのは確実だ。かねてよりグアムのマリアナスシリーズはエジソン・カゴハラ会長のASJJFと業務提携していたが、昨年よりASJJFの上位連盟であるジョアオ・シウバ会長のSJJIFの傘下に入り、スポーツ柔術グアム連盟＝SJJGFとして活動中。そしてASJJFが主催するフィリピンや韓国、マレーシアの大会などの成績優秀者たちに「MARIANAS OPEN」のフリーレジストレーションの贈呈があるなど、ASJJFとグアムの柔術的な交流は活発化している。南の島の柔術パラダイス＝グアムで開催の「MARIANAS OPEN」はこれからも要注目の大会であることは間違いないのだ。

MARIANAS OPEN 2025 GI and NO-GI

10/18(土) UOGフィールドハウス
October 18 / UOG Field House

“MARIANAS OPEN,” which is held regularly in Guam every fall, is a prize tournament with a large prize fund. Last year’s “MARIANAS OPEN” had a prize fund of \$50,000, the highest prize fund ever, and this year the prize fund will continue to be the same. The following day, an awards ceremony was held in the banquet room of a luxury hotel, making this the largest and most important event of the year in Guam’s jiu-jitsu scene. MARIANAS OPEN will also feature a NO-GI event starting this year. The demand for NO-GI tournaments is increasing worldwide, with many professional events being held, and Guam seems to be no exception to this trend. The easy accessibility of Guam to Japan, only 3.5 hours by air, and the one-hour time difference between Japan and Guam is also very convenient for those who live in Japan. This year’s Marianas Pro will be held in Tokyo, Nagoya, Manila, and Taiwan, and winners of these tournaments will all come to Guam. The Guam Marianas Series has long been affiliated with President Edison Kagohara’s ASJJF, but since last year it has been under the umbrella of President Joao Silva’s SJJIF, a federation above the ASJJF, and is now active as the Sport Jiu Jitsu Guam Federation (SJJGF). ASJJF and Guam’s Jiu Jitsu exchange is becoming more and more active, with ASJJF presenting free registration for the “MARIANAS OPEN” to the best performers at ASJJF-sponsored tournaments in Philippines, Korea, and Malaysia. “MARIANAS OPEN” in Guam, the Jiu Jitsu in paradise is sure to be a tournament to keep an eye on.



大会会場は昨年同様にUOGフィールドハウスだが、マット数は8面に増やして行う予定だ。

Tournament will be held at the UOG Field House as last year, but number of mats will be increased to 8 mats.



たくさんの人が大会を通して グアムに行くことが増えているのは 大きな相乗効果

アジアスポーツ柔術連盟会長

エジソン・カゴハラ

いまや ASJJF 会長のエジソン・カゴハラ氏は
グアムの柔術シーンにとってなくてはならない存在となっており、
このエジソン氏の助力があってアジアエリアでの
マリアナスプロ開催となっている。
そんなエジソン氏にアジアとグアムの柔術シーンの繋がりを聞いた。

私 が代表を務める ASJJF とグアムの連携の歴史は古く、コロナ禍以前から続いています。コロナ禍の時は大会開催ができなかったため、活動を縮小していましたが、それが終わってから活動を開始し、コロナ禍以前よりも活発に活動しています。今年からマリアナスオープンの大トリ大会であるマリアナスプロが4大会になり、台湾大会も増えて、さらに盛り上がってきています。この日本では今年、東京と名古屋で2大会を開催して、合計で3000人以上の参加がありました。これは昨年の参加者数を大きく上回る結果で、みんながグアムに行きたいという気持ちの表れと感じています。またアジアエリアではフィリピンと台湾で大会を開催しましたが、その2大会も大きな成功をおさめており、特に台湾大会では史上最大人数を集めた記録的な大会となりました。そして過去大会の優勝者たちが実際にグアムに行き、その素晴らしさを周囲の人たちに広め、それが大きな宣伝となって、さらに多くの人たちが大会に参加してグアムに行くという流れが生まれています。このマリアナスシリーズの大会を通して、アジアエリアの人たちがたくさんグアムに行くことが増えていっているのは大きな相乗効果だと感じています。これからもこの良好な関係を継続していきたいと思います。

A SJJF, of which I am the president, has a long history of cooperation with Guam, dating back to before COVID disaster. During COVID disaster, we were unable to hold tournaments, so we had to scale back our activities, but after it was over, we resumed our activities and are now more active than before COVID disaster. This year, the number of Marianas Pro tournaments, which are trials for the Marianas Open, has increased to four, and the number of tournaments in Taiwan has also increased, making the event even more exciting. In Japan, two events were held in Tokyo and Nagoya this year, with a total of over 3,000 competitors. This is a significant increase over last year's number of competitors, and I feel that it is a sign that everyone wants to go to Guam. In Asia, we held Philippines and Taiwan tournaments, both of which were great successes, and Taiwan tournament in particular was a record-breaking event with the largest tournament in our history. The winners of past Marianas Series events have actually traveled to Guam and spread the word about how great it was, which has led to a great deal of publicity and even more people traveling to Guam to participate in the events. I feel that this is a great synergistic effect, as more and more people from the Asian region are visiting Guam through the Marianas series of competitions. We hope to continue this good relationship in the future.

ART

ASJJF ROLLING TOUR

6

8.16 SAT 2025

ついに ASJJF 主催のプロ柔術「ART」が日本で復活する。この「ART」は ASJJF ROLLING TOUR の略で、大会コンセプトは「ASJJF で活躍する選手たちの新たなステージを作る」とのことで、今大会には ASJJF の常連選手のトップランカーたちがこぞって参戦し、過去5大会が開催されている。国内での大会は 2023 年 12 月を最後に開催が休止されていたが、昨年はフィリピン・セブで「ART フィリピン」が開催され、日本から多数の選

手が参戦して華々しく開催されたのは記憶に新しいところ。そして今回、1年半ぶりに満を持して日本での「ART」開催が決定した。日程は 8/16 (土) で、会場は愛知県碧南市にある碧南市芸術文化ホール。ここはシアタータイプのホールとなっており、舞台にマットを設置して試合を行うスタイルとなる。今大会では 15 ～ 18 試合ほどがマッチメイクされる予定で、すでに出場予定選手の何人かはリストアップされており、トップ選手たちが顔を揃えている。さらに秋

にはフィリピン・セブでもプロ柔術「ART フィリピン .5」の開催が決定しており、下半期はプロ柔術の連続開催でさらに盛り上がっていくことだろう。



会場の碧南市芸術文化ホールはシアタータイプの劇場で、このステージにマットを設置して試合が行われる。席数は300席余りなので満員必至だろう。

ASJJF RANKING 2025

ASJJF ではポイント制による年間ランキングを設けており、
成績優秀者には翌年度の大会の出場費免除や賞金などの特典が与えられます。

大会のグレードと獲得ポイント数



獲得ポイントの計算方法

- 選手が得られるポイント数は以下の計算式で算出されます。

大会グレード×最終順位によるポイント+勝利ごとのポイント=獲得ポイント

- 勝利ごとのポイントは以下のように勝ち方によって変わってきます。

- ・サブミッション(絞技を含む)による勝利=4pt
- ・その他の勝ち方による勝利(不戦勝を含む)=1pt

ポイントの算出例

WORLD JIUJITSU(15 STAR)で優勝:5試合を戦い抜き、3試合をサブミッションで勝利、1試合が判定勝利、1試合が不戦勝だった選手の場合。

$$\begin{array}{ccccccc} (15 \times 15) + (3 \times 4) + (2 \times 1) & = & 225 + 12 + 2 & = & 239\text{pt} \\ \text{大会グレード} & \text{順位による} & \text{サブミッション} & \text{サブミッション} & \text{サブミッション} & \text{サブミッション} & \text{獲得ポイント数} \\ \text{(15 STAR)} & \text{ポイント} & \text{での勝利数} & \text{勝利の} & \text{以外での勝利数} & \text{以外での勝利による} & \\ & \text{(1位)} & \text{(3試合)} & \text{基本ポイント} & \text{(2試合)} & \text{基本ポイント} & \end{array}$$

集計対象のポイント

- 選手が階級(カテゴリー)無差別(アブソルート)に出場する場合、ランキングに反映されるのはどちらか高い方のポイントのみとなります。例えば階級で78ポイント、無差別で81ポイントを獲得した場合はポイントの高い無差別の81ポイントのみが集計の対象となります。
- 勝利ごとのポイントは準決勝以降の試合に進出した選手(入賞者)のみに加算されます。
- 集計対象のポイントになるのは同じ年齢カテゴリーのみになります。例えば普段はマスター 30のカテゴリーに出場している選手がアダルトのカテゴリーでポイントを獲得したとしても、マスター 30でのポイントには加点されません。また年度内に帯が変わった場合、以前の帯で獲得したポイントは集計対象として残りますが、新しい帯カテゴリーで獲得したポイントはまた別の集計対象となります。

2025 ランキング上位者への特典及び規定

- 各帯、年齢カテゴリーのランキング1位となり、かつ1,300ポイント以上を獲得した選手は、2026年に日本国内で開催されるASJJF及びSJJJFの大会のエントリー費が免除されます。
- 各帯、年齢カテゴリーのランキング1位となり、かつ2,600ポイント以上を獲得した選手は、賞金として100,000円が授与されます。また3,100ポイント以上を獲得した選手には50,000円の追加ボーナス、3,600ポイント以上を獲得した選手には100,000円の追加ボーナスが授与されます。

JAPAN RANKING	ASIA RANKING		
ランキング 1 位且つ 1,300pt 以上獲得 国内で行われる ASJJF/SJJJF の大会 エントリー費免除	ランキング 1 位且つ 2,600pt 以上獲得 ¥100,000	ランキング 1 位且つ 3,100pt 以上獲得 ¥150,000	ランキング 1 位且つ 3,600pt 以上獲得 ¥200,000

※ポイント集計は2025年1月から12月までの大会を対象にしています。

SJJIF ワールド、今年も日本での開催が決定



昨年に引き続き日本での開催となった SJJIF 主催の世界選手権 = SJJIF ワールド。今年は千葉ポートアリーナで4日間に渡り開催されるが、今大会は SJJIF = スポーツ柔術国際連盟の会長であるジョアオ・シウバが主催者で、その下部組織である ASJJF が大会主管となる。この SJJIF とはエジソン・カゴハラ会

長の ASJJF = アジアスポーツ柔術連盟と村田良蔵会長の SJJIF = スポーツ柔術日本連盟の上位連盟であり、位置づけ的には国際連盟 = SJJIF > アジア連盟 = ASJJF > 日本連盟 = SJJIF となっており、SJJIF が最高位の連盟という位置付けで、その SJJIF が直々に主催するのが SJJIF ワールドなのだ。開催日程は 9/18 ~

21 の4日間で、プレスケジュールはすでに発表されている。この SJJIF ワールドもギ&ノーギだけでなくパラ柔術、キッズも同時開催される。2年連続の日本開催、しかも今年は東京からもほど近い千葉での開催となった SJJIF ワールド。日本にいながらにして世界王者となるチャンス、これを逃す手はないだろう。

ASJJF Upcoming Events 2025 July-2026 March



2025 Flipsports International Jiu Jitsu Open

Gmall Of Cebu Atrium, Cebu
Philippines

2025年7月19日(土)



West Japan Jiu Jitsu Championship 2025

大阪府 吹田市立武道館

2025年7月21日(月・祝)



Asjjf Taiwan International Jiu Jitsu Championship 2025

Taipei Xin-yi Sports Center 6f,
Taipei Chinese Taipei

2025年7月26日(土)、27日(日)



Central Japan Jiu Jitsu Championship 2025

愛知県 青山記念武道館

2025年8月2日(土)



Shikoku Open Jiu Jitsu Championship 2025

徳島県 ソイジョイ武道館

2025年8月11日(月・祝)



Manila Jiu Jitsu Festival 2025

Festival Mall Alabang, Manila
Philippines

2025年8月23日(土)



South Japan Jiu Jitsu Championship 2025

佐賀県 基山町総合体育館

2025年8月31日(日)



2025 Marianas Open International Championship

University Of Guam Calvo
Fieldhouse, Guam

2025年10月18日(土)

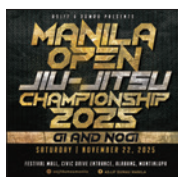
ASJJF Upcoming Events



Chugoku Open Jiu Jitsu Championship 2025
山口県 岩国市総合体育館
2025年10月26日(日)



The King Of The Island Jiu Jitsu Championship 2025
沖縄県 沖縄市武道場
Koza Budokan
2025年11月15日(土)



Manila Open Jiu Jitsu Championship 2025
Philippines
2025年11月22日(土)



Kyushu International Open Jiu Jitsu Championship 2025
佐賀県 基山町総合体育館
2025年11月30日(日)



Sjjif World Jiu Jitsu Championship 2025
千葉県 千葉ポートアリーナ
2025年9月18日(木) ~ 21日(日)



Central Japan Open Jiu Jitsu Championship 2025
愛知県 青山記念武道館
2025年12月6日(土)、7日(日)



Tokushima Open Jiu Jitsu Championship 2025
徳島県 ソイジョイ武道館
2025年12月14日(日)



Tokyo International Winter Jiu Jitsu Championship 2025

東京都
駒沢オリンピック公園 体育館
2025年12月27日(土)、28日(日)



Tokyo Open Kids Jiu Jitsu Championship 2025

東京都 ひがしんアリーナ
2025年12月27日(土)



XXIII Copa Dumau De Jiu Jitsu 2026

愛知県 愛知県武道館
2026年2月14日(土)



Tokyo International Spring Jiu Jitsu Championship 2026

東京都 ひがしんアリーナ
2026年2月28日(土)、3月1日(日)



Asjif Asian Open Jiu Jitsu Championship 2025

東京都 国立代々木競技場 第二体育館
2025年12月19日(金)～21日(日)



Asia Jiu Jitsu Cup 2026

東京都 駒沢オリンピック公園 体育館
2026年3月27日(金)～29日(日)

JIU JITSU TODAY

【発行】



Asian Sport Jiu-jitsu Federation